



● 停滞していた国際交流・国際化の再活性化を目指して —— 八丈町企画財政課

外国人への対応力向上を目指して

2020年東京オリンピックの開催を契機に多くの外国人観光客を招きたいと考えている八丈町では、2018年8月に15年ぶりとなる国際交流員（CIR）のマンタス・ヤケレイティス氏をリトアニア共和国より任用しました。

国際交流を目的として、さまざまなイベントへの参加・企画提案を行うほか、観光パンフレットなどの英訳、町役場職員（対象：20名）の語学力向上を目指した毎週1回30分程度、一対一の英会話指導に日々従事しています。

町では、ALTによる町民向けの英会話教室も行われていますが、業務などの都合上、なかなか定期的な参加が難しい職員が多く、たまに参加できても集団指導では一人一人が話す機会が少ないため、オリンピック開催まで残り2年を切ったいま、職員の語学力をどう向上させるかが課題となっておりました。

CIRはALTと異なり、英会話指導の専門家ではありませんので、耳を慣らす程度の内容を予想していましたが、毎回、各受講者のレベルに合わせた資料を作成し、細かな指導を行う積極的な姿勢は、職員の英会話に対するモチベーション向上にもつながっています。

母国からの合唱団来島

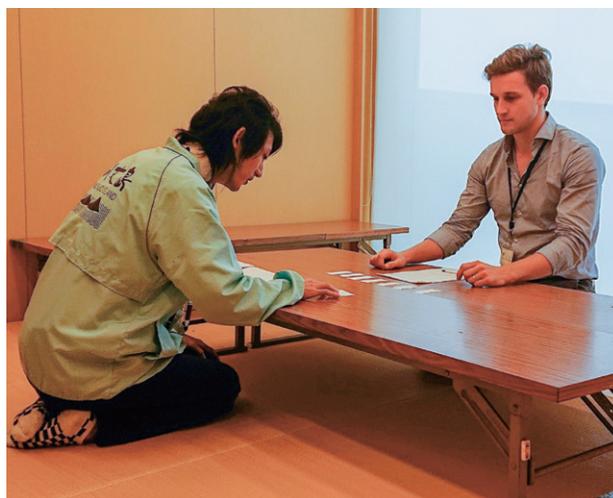
在リトアニア日本国大使館からの提案により、2018年11月には、数多くの国際大会で輝かしい成績を収めているパリス・ドヴァリヨナス音楽学校合唱団の生徒たちが来島し、町へ素晴らしい歌声を届けてくれました。

CIRは観光先やルートを企画し、合唱団滞在中は、事前に調べた情報をもとに、観光バスの中でガイドを行いました。町の合唱団などの交流会も盛会のうちに終わることができ、生徒も非常に楽しんでくれた様子でした。

打ち合わせを重ねる中で出てくる日本人とは全く異なる視点での指摘や提案は、まさに目から鱗が落ちる思いであり、今後のCIRの活動が、停滞気味であった町の国際交流・国際化における起爆剤となってくれることを期待しています。



CIRマンタス氏自ら企画提案したリトアニア紹介ギャラリー



町職員への英会話指導の様子



パリス・ドヴァリヨナス音楽学校合唱団によるコンサートの様子